

# 中1ギャップを防ぐために

～登校している児童生徒の学校生活が充実する取り組み～

これまでの学校での熱心な取り組みや細やかな対応によって、不登校は少しずつ減少傾向にあります。今後さらに不登校を未然に防止し、学校生活をより充実させていくために、長欠調査の分析からより効果が上がる時期や対象者に注目してみました。

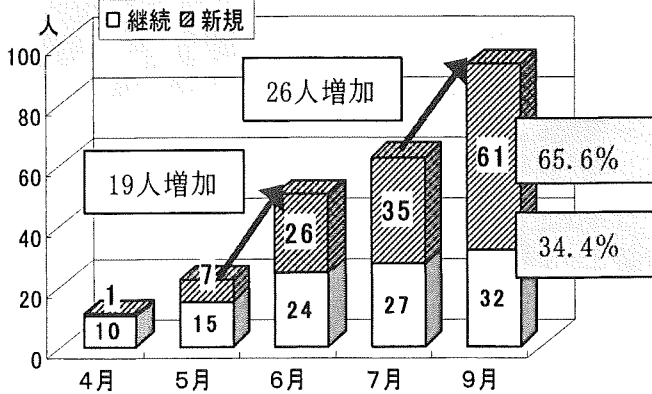
## 中1から中2にかけての急増に注目

9月末に10日以上欠席した中学生の同一集団で、昨年と今年の欠席数を比較すると、1年生から2年生にかけて、欠席数が急増することが分かりました。

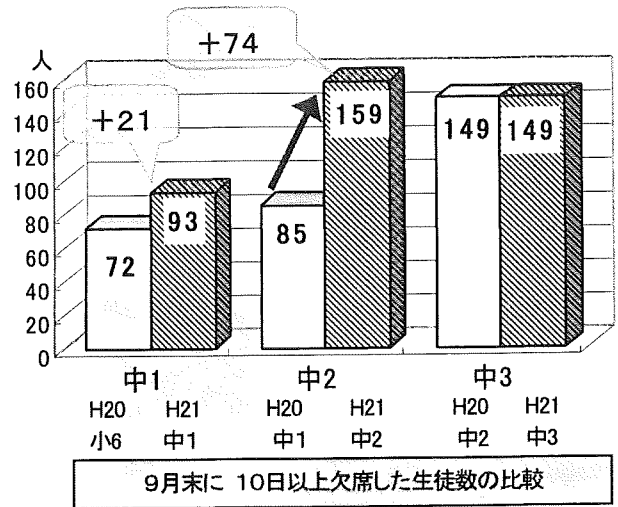
特に1年生では、9月に新しく休み始める生徒が目立っています。

## 9月中1の新規増に注目

現在の中1の4月からの増加の状況(累計10日以上欠席)



同一集団での昨年と今年の比較(中学校)



また、現在の中1年生の累計10日以上欠席者のうち、小学校6年生までにいずれかの学年で30日以上欠席経験があるなしで、中学生になって休み始める時期に一定の傾向があることはつきりしてきました。

## 不登校の未然防止に効果がある対応の時期

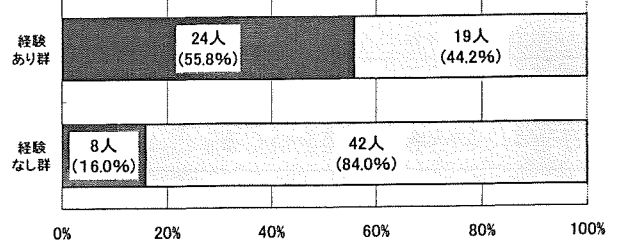
○ 小学校時期に不登校の経験があった生徒には…

↓  
1学期当初からの対応に意味があり、春休み中から準備をする必要がある。そして、常に欠席状況に気を配る。

○ 小学校時期に不登校経験の無い生徒には…

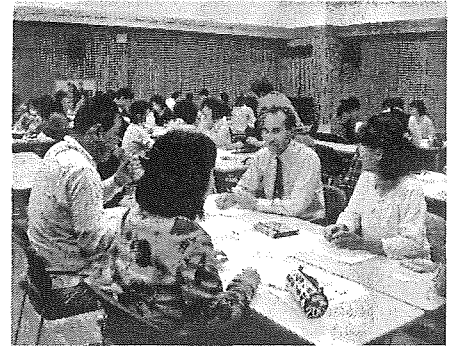
↓  
学力や人間関係に配慮しながら、夏休みに入るまでに丁寧な対応ができていれば、効果が期待できる。さらに、2学期の学校生活を充実させる手立てを工夫する。

「経験あり」群・「経験なし」群での9月末で欠席が30日以上になっている割合



30日以上欠席経験あり群の生徒のうち、6割弱の子どもが、中学1年生の9月末で、30日以上欠席になっていることが分かりました。それに対して、経験なし群の方では9月からの欠席が目立ち始めます。

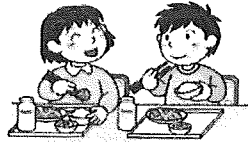
先日の第4回校内不登校対策委員会担当者研修会では、「中1ギャップをどう防ぐのか、学校でできる予防と支援にはどういうことがあるのか」などについて、中学校区別に分かれてグループ協議を行いました。  
熱心な協議の様子を再現することは難しいですが、話し合われた内容の一部をご紹介します。



## 中1ギャップを予防するためにできること

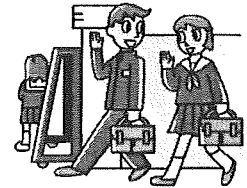
### 小学校で

- 学力について
  - ・基礎学力の定着
- 中学校生活に向けて
  - ・体験入学
  - ・教科担任制
  - ・チャイム着席
  - ・英語の授業
- 小学校で育てる力、体験させたいこと
  - ・自主性
  - ・自尊感情
  - ・表現力
  - ・自立
  - ・大人との信頼関係
  - ・中学校に対する安心感
  - ・エンカウンターを導入
- 保護者への対応
  - ・保護者とのつながり
  - ・SSWとの連携
  - ・基本的な生活習慣確立を家庭へ啓発
  - ・学校カウンセラーを活用
- 教員の連携の確立
  - ・校区の小学校の交流の機会を増やす
  - ・情報交換の場を多く
- 特別な教育的支援の必要な子どもへの対応
  - ・支援教室でのスキル学習
  - ・専門機関への相談
  - ・安心できる居場所
- 小中の引継ぎ事項
  - ・個々への配慮事項の徹底
- 教師が身に付けたい力
  - ・子どもを見取る力
- 教師の多忙感を減らす
  - ・子どもと向き合う時間をつくる



### 中学校で

- 学力について
  - ・加力指導
  - ・取り出しや放課後支援
  - ・学習習慣の定着
  - ・授業態度を認める
  - ・授業を互いに参観し合う
  - ・評価の観点を示す
- 小学校での取り組みを中学校に引き継ぐ
  - ・チーム支援
- 人間関係づくり
  - ・教師と生徒、生徒同士の関係づくり
  - ・早い時期からのコミュニケーションづくり
  - ・クラス編成時に個々の情報を見落とさない
  - ・生徒が楽しいと感じる雰囲気
  - ・信頼関係の構築
  - ・生徒会を活用
  - ・4月に全校合唱
- 教師の連携体制
  - ・学年団で協力
  - ・本音が語れる環境
  - ・複数担任制
  - ・教科担任や部活動顧問等と学級担任の細かな情報交換
- 生活指導
  - ・規則正しい生活
  - ・中1の慣らし期間
  - ・丁寧な対応
  - ・目立たない生徒への心配り
- 教育相談の充実
  - ・生徒との面談の時間
- 行事を生かす
  - ・集団宿泊訓練等でのグループワーク
- 道徳の時間の充実
  - ・協力の精神
  - ・自尊感情
- 親子関係を良くする
  - ・親の不安定な要因に丁寧に対応



### 小中連携で

- ・人間関係づくりプログラムを計画的に実施する
- ・個々の子どもに焦点を当てた連携を図る
- ・情報交換を密にする
- ・小中合同の支援会をもつ（中1の場合）
- ・中1のクラス編成を全小学校合同で行う
- ・発達障害の子どもへの認識や支援方法を共有する
- ・小中で一緒に家庭訪問を行う
- ・9年間を見通した教育計画を立てる
- ・授業改善策を小中で検討する
- ・中学校の先生が小学校の子どもたちの前で話す機会を持つ
- ・陸上やバスケットなどの指導交流の機会をもつ

